第二十講・短歌、俳句(はいく)

短歌

短歌は、千三百年以上も昔から作られてきたものである。**五・七・五・七・七の三十一音**からなり、自然(しぜん)の風景(ふうけい)や思いを、短い言葉の中にうたっている。

◆短歌の形式◆

「五・七・五・七・七」の三十一音からなっている。初(はじ)めの「五・七・五」を上(かみ)の句(く)、後の「七・七」を下(しも)の句という。

（上の句）			（下の句）	
五	七	五	七	七
金色(こんじき)の	小さき鳥の	形して	いちょうちるなり	夕日の丘に
初句	二句	三句	四句	結句

・字余(あま)り　音数が三十一音より多いこと。

・字足らず　音数が三十一音より少ないこと。

◆小倉(おぐら)百人一首◆

「百人一首」の中で最もよく知られているものが「小倉百人一首」である。これは藤原定家(ふじわらのていか)という人物が、百人の歌人の歌を一首ずつ選んで集めた歌集である。藤原定家は、平安(へいあん)時代末期から鎌倉(かまくら)時代にかけて活やくした人物で、当時もっともすぐれた歌人の一人としても有名である。

この歌集は定家の好みで集められた歌集であるが、後の人々から愛されて、今では古典(こてん)の入門書としても読まれている。

「小倉百人一首」には、春夏秋冬の自然や恋(こい)などを歌った短歌が集められている。

君がため春の野に出(い)でて若菜(わかな)つむわが衣手(ころもで)に雪はふりつつ　光孝天皇(こうこうてんのう)

人はいさ心も知らずふるさとは花ぞ昔の香(か)ににほ(お)ひ(い)ける　紀貫之(きのつらゆき)

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

みなさんは、「百人一首」を知っていますか。「百人一首」は、昔の有名な短歌を百首集めたもので、今でも、かるたの形で多くの人々に親しまれています。

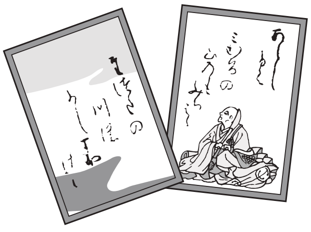
短歌は、五・七・五・七・七の三十一音で表される短い詩です。千年以上前に日本で生まれました。昔の人は、季節（きせつ）や自然、人生、人を思う心などを短歌によみ、おたがいに伝え合っていました。声に出して読んでみましょう。

嵐（あらし）吹（ふ）く三室（みむろ）の山のもみぢ（じ）葉は
龍田（たつた）の川の錦（にしき）なりけり
能因法師（のういんほうし）

五　七　五
あらしふく　みむろのやまの　もみじばは
七　七
たったのかわの　にしきなりけり

あらしがふきおろす三室山のもみじの葉は、まるで龍田川の錦織物（にしきおりもの）のようだなあ。

〈教科書書きおろしによる〉



©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　「百人一首」とは、何ですか。文章中から十五字でぬき出しましょう。

(2)　短歌は、いくつの音でできている詩ですか。次の□にあてはまる数を漢数字で書きましょう。

□音

(3)　短歌は、いつごろ、どこで生まれた詩ですか。

いつごろ

どこで

(4)　昔の人は、何を短歌によみ、たがいに伝え合っていたのですか。文章中からぬき出しましょう。

(5)　――線「嵐吹く…なりけり」を今の言葉に直すと、どのようになりますか。あてはまる文を文章中からぬき出し、初めと終わりの四字を答えましょう。(。は一字に数えません。)

～

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の短歌と文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

Ａ　東(ひんがし)の野にかぎろいの立つ見えて
かえり見すれば月かたぶきぬ
柿本人麻呂(かきのもとのひとまろ)

「かぎろい」とは、日が上る直前にさす、ほのかに赤い光です。「かたぶきぬ」は、「かたむいていた」という意味です。広い野原に立って東の方を見ると、明け方の光が見えてきました。ふり返ると、月は西にかたむいていたのです。

短歌は五・七・五・七・七の三十一音からできています。自然の風景や心に感じたことを、ひびきのよい言葉やリズムでうたいあげています。みなさんも、五音と七音のくり返しのリズムを楽しみながら、何度も声に出して読んでみましょう。

Ｂ　秋来(き)ぬと目にはさやかに見えねども
風の音にぞおどろかれぬる
藤原敏行(ふじわらのとしゆき)

秋の初めのころには、まだ木々の緑も青々としています。「秋が来た。」と目にははっきりと見えません。けれど、聞こえてくる風の音で、はっと秋が来たことに気づいたのです。

〈文章は教科書書きおろしによる〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　Ａ・Ｂの短歌を、例にならって五・七・五・七・七のリズムに分けましょう。

〈例〉　見わたせば／花ももみじも／……

Ａ　東の野にかぎろいの立つ見えてかえり見すれば月かたぶきぬ

Ｂ　秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる

(2)　Ａの短歌で、作者はどちらの方向を見ていますか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　初めは西の空を見ていたが、とちゅうから東の空を見ている。

イ　初めは東の空を見ていたが、とちゅうから西の空を見ている。

ウ　初めから終わりまで、南の空を見ている。

(3)　――線「さやかに」とありますが、どんな意味ですか。文章中からぬき出しましょう。

(4)　Ｂの短歌で、作者は何によって秋が来たことに気づきましたか。短歌の中からぬき出しましょう。

(5)　次の言葉は、Ａ・Ｂのどちらの短歌にふさわしい言葉ですか。あてはまるものを選び、記号で答えましょう。

・広々とした夜明けの感じ。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

俳句

五・七・五の十七音という短い言葉で表現（ひょうげん）する俳句には、かならず季節を表す言葉（季語）が入っている。その季節によく見られる植物や動物、天気や行事などが季語になっている。

春　さくら、梅（うめ）、種（たね）まき、田植え、かえる、すずめ、春雨（はるさめ）など

夏　せみ、金魚、ほたる、はえ、すいか、梅雨（つゆ）、入道雲、夕立ち、短夜など

秋　とんぼ、すず虫、朝顔、落ち葉、もみじ、さんま、いねかり、台風など

冬　雪、北風、こがらし、かれ木、つる、うさぎ、きつね、年末（ねんまつ）、正月など

一　次の俳句を読んで、あとの問いに答えなさい。

A　五月雨（さみだれ）を　あつめてはやし　最上川（もがみがわ）　松尾芭蕉（まつおばしょう）

B　さじなめて　童（わらべ）たのしも　夏氷（なつごおり）　山口誓子（やまぐちせいし）

C　やせがえる　負けるな一茶（いっさ）　これにあり　小林一茶（こばやしいっさ）

D　赤とんぼ　筑波（つくば）に雲も　なかりけり　正岡子規（まさおかしき）

(1)　A～Dの句で、季節を表す言葉をそれぞれぬき出しなさい。

A ＿＿＿＿

B ＿＿＿＿

C ＿＿＿＿

D ＿＿＿＿

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二　次の短歌・俳句を読んで、あとの問いに答えなさい。

A　朝顔に　つるべとられて　もらい水　加賀千代(かがのちよ)

B　かき食えば　かねが鳴るなり　法隆寺(ほうりゅうじ)　正岡子規(まさおかしき)

C　しずかさや　岩にしみいる　せみの声　松尾芭蕉(まつおばしょう)

D　しづかなる　力満(み)ちゆき　※はたはたとぶ　加藤楸邨(かとうしゅうそん)

(注)はたはた＝ここでは、ショウリョウバッタのこと。

E　菜(な)の花や　月は東に　日は西に　与謝蕪村(よさぶそん)

F　こがらしや　海に夕日を　ふき落(おと)す　夏目漱石(なつめそうせき)

G　やれ打つな　はえが手をする　足をする　小林一茶(こばやしいっさ)

H　金色(こんじき)の　小さき鳥の　かたちして　いちょう散(ち)るなり　夕日のおかに　与謝野晶子(よさのあきこ)

I　君がため　春の野に出(い)でて　若菜(わかな)つむ　わが衣手(ころもで)に　雪はふりつつ　光孝天皇

J　しもやけの　小さき手して　みかんむく　わが子しのばゆ　風の寒きに　落合直文(おちあいなおぶみ)

K　ふるさとの　なまりなつかし　停車場(ていしゃば)の　人ごみの中に　そをききに行く　石川啄木(いしかわたくぼく)

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) Ａ・Ｄ・Ｆ・Ｇの俳句から、季節を表す言葉をぬき出しなさい。

Ａ［　　］　Ｄ［　　］

Ｆ［　　］　Ｇ［　　］

(2) Ｂの俳句は、どのような意味ですか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　法隆寺ではかきを食べるのを合図に、かねが打たれる。

イ　かねを打ちながら食べるかきが一番おいしい。

ウ　かきを食べていると、寺のかねの音が聞こえてきた。

エ　法隆寺でかきを食べていると、かねが鳴って帰る時間になった。

［　　］

(3) Ｃの俳句の意味を説明(せつめい)した次の文の［　　］Ａ・Ｂにあてはまる言葉を俳句の中からぬき出しなさい。

［Ａ］の中、鳴き始めた［Ｂ］の声がまわりにひびいているよ。

Ａ［　　］　Ｂ［　　］

(4) Ｅの俳句は、どの時間帯によまれた句ですか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　太陽がのぼりはじめる朝。

イ　菜の花がきれいに見える昼間。

ウ　太陽がしずんで月が見え始める夕方。

エ　月の光が菜の花をてらす夜。

［　　］

(5) Ｈ～Ｊの短歌がよまれた季節を答えなさい。

Ｈ［　　］　Ｉ［　　］　Ｊ［　　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(6)　Hの短歌で「小さき鳥」とありますが、何がそのように見えるのですか。考えて答えなさい。

(7)　Iの短歌は、どのような意味ですか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　まだ雪がふる冬に、君と野原で若菜をつんでいたなあ。

イ　春の野原で君にあげる若菜をつむわたしのそでに、雪がふりかかってくるよ。

ウ　雪のふる中、君と若菜をつんでいるうちに春が来たようだ。

エ　君がいなくなって、泣（な）いているわたしのそではなみだでぬれているよ。

---

(8)　Kの短歌はどのような意味ですか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　ふるさとの方言がなつかしくて、駅に聞きに行った。

イ　ふるさとの方言を聞いて、帰りたくなり駅に来てしまった。

ウ　駅にいたら、なつかしいふるさとの方言が聞こえてきた。

エ　駅で同じふるさとの人の方言を聞いて、はずかしくなった。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三 次の短歌を読んで、あとの問いに答えなさい。

A たわむれに　母を背負(せお)いて　そのあまり
軽(かろ)きに泣きて　三歩あゆまず
石川啄木

B 奥山(おくやま)に　もみじふみ分け　鳴くしかの
声聞くときぞ　秋は悲しき
猿丸大夫(さるまるだゆう)

C 人はいさ　心も知らず　ふるさとは
花ぞむかしの　香(か)に匂(にお)(い)ひける
紀貫之

(1) Aの歌によまれている気持ちとしてふさわしくないものを、あとから選び、記号で答えなさい。

ア 心苦しさ　**イ** 悲しみ
ウ 感謝(かんしゃ)　**エ** いかり

(2) Bの歌の意味を説明した次の文の[①]・②にあてはまる言葉を、それぞれ歌の中からぬき出しなさい。

深い山の奥で、もみじをふみ分けながら鳴いている[①]の声を聞くと、[②]はしみじみとさびしいものだと感じられるなあ。

① [ ]
② [ ]

(3) Cの歌の意味としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ふるさとのみんなといっしょに花の香(かお)りを楽しみたいなあ。

イ あの人はわたしのふるさとの花の香りを知らないのだなあ。

ウ 花の香りがふるさとを思い出させることだなあ。

エ 人の心はわからないが、ふるさとの花の香りだけはかわらずに匂っているよ。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十講●確認テスト

次の文の組み立てを選びなさい。

1　花が　さく。

ア　何が（は）どうする
イ　何が（は）どんなだ
ウ　何が（は）なんだ
エ　何が（は）ある（いる、ない）

2　ぼくは　四年生だ。

ア　何が（は）どうする
イ　何が（は）どんなだ
ウ　何が（は）なんだ
エ　何が（は）ある（いる、ない）

3　犬が　いる。

ア　何が（は）どうする
イ　何が（は）どんなだ
ウ　何が（は）なんだ
エ　何が（は）ある（いる、ない）

4　世界は　広い。

ア　何が（は）どうする
イ　何が（は）どんなだ
ウ　何が（は）なんだ
エ　何が（は）ある（いる、ない）

5　雨が　ふる。

ア　何が（は）どうする
イ　何が（は）どんなだ
ウ　何が（は）なんだ
エ　何が（は）ある（いる、ない）

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十講　短歌、俳句(はいく)

一題目

(1) 昔の有名な短歌を百首集めたもの
(2) 三十一（音）
(3) いつごろ…千年以上前
　どこで…日本
(4) 季節や自然、人生、人を思う心など
(5) あらしが～うだなあ

二題目

(1) A東の／野にかぎろいの／立つ見えて／かえり見すれば／月かたぶきぬ
　B秋来(き)ぬと／目にはさやかに／見えねども／風の音にぞ／おどろかれぬる
(2) イ
(3) はっきりと
(4) 風の音
(5) A

俳句

一

(1) A五月雨(さみだれ)
　B夏氷(なつごおり)
　Cやせがえる
　D赤とんぼ

二

(1) A朝顔
　Dはたはた
　Fこがらし
　Gはえ
(2) ウ
(3) Aしずかさ
　Bせみ
(4) ウ
(5) H秋
　I春
　J冬
(6) (例)いちょうの葉
(7) イ
(8) ア

三

(1) エ
(2) ①しか
　②秋
(3) エ

〈確認テストの解答〉

1　ア　2　ウ　3　エ　4　イ　5　ア

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。